

林業技術センター  
普及班便り  
(第46回)

## いわての林業人25

はじめに

今月の普及班便りでは、平成22年度岩手県林業経営推奨行事で表彰された2名の方々をご紹介します。

### 【最優秀賞】瀬川芳省さん（花巻市）

○計画的な伐採と保育で優良材生産  
保有する山林を幾つかのブロックに分け、高齢林分の皆伐により収入を確保しつつ、若齢林分の整備を進めています。また、森林整備作業の大部分を森林組合に委託して、自家労力の効率的な運用を図っています。このうち自分で行う作業については、季節ごとに作業種を分け、効率的な



瀬川芳省さん

実施に努めています。さらに、材質の向上を目的として、刈り払いや除伐の際に枝打ちも行っています。

### ○複合経営による経営の安定化

数年前から原木シイタケ生産を始め、経営の安定化を図っています。栽培に使用する原木は自己所有山林から調達し、小径材から大径材まで、無駄なく利用しています。さらに、野生きのこ類（アマタケなど）の増産

### ○地域林業の振興に対する貢献

瀬川氏は、昭和27年以降、自家山林の80ヘクタールに造林を続け、地域住民の林業意欲の喚起に貢献しました。また、終戦後、自己所有山林の一部を地域住民に開放し、地域の一歩を地域住民に寄与しました。生活基盤の構築に寄与しました。

### 【優秀賞】伊東千賀雄さん（一関市）

○計画的な間伐による優良大径材の生産と販売

伐期齢を50年程度に定めて、間伐を繰り返すことにより優良材を生産しています。生産材の一部は県の良質材コンクールにも出品され、高い評価を受けています。また、販売面においても、素材販売額や労務経費を独自に試算し、伐採期や素材の販売時期を細かく調整するなど、緻密

な林業経営を行っています。

### ○再造林の励行による資源の保続

所有山林の一部には伐期が到来し、順次、皆伐していますが、皆伐後には再造林することを目標としており、計画的な植栽を実践しています。また、松くい虫の被害地域であるため、再造林の際にはカラマツ、ヒノキも植栽し、樹種転換を図っています。

### ○経費の低減

皆伐や間伐を行なう際は、必ず作業路を開設し、搬出作業のコスト低減を図っています。また、皆伐をする場合には、素材の搬出を行いなから地拵を行なうなど、再造林コストの低減を実践し、地域の林業経営の規範となっています。

### ○地域林業の振興に対する貢献

伊東氏は、昭和27年頃から本格的に林業に取り組み、平成12年から21年



伊東千賀雄さん

まで東磐井地方森林組合の代表理事組合長を努めました。この間には、収益性の高い林業機械の導入や、徹底したコストの削減により、森林組合の経営改善に努めました。また、若い作業員を現場に配属させることにより、地域の林業振興に対する波及効果も生み出しました。

おわりに

受賞された方々におかれましては、たいへんおめでとうございます。なお、瀬川芳省さんについては、全国林業経営推奨行事へ推薦させていただきました。



表彰式

林業技術センター普及班

019(698)1337